

Rotary



# 白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2022～2023年度クラブ目標

『想像しよう、未来のロータリー  
創造しよう、これからのクラブ』



イマジン  
ロータリー

会長 高 阜 裕  
幹事 車 田 裕 介



2022～23年度国際ロータリーテーマ

## 第1725回例会

令和4年9月1日(12:30～13:30)

○ソング

- 君が代 ●奉仕の理想

○ビジター

米沢中央RC 会長 宮嶋敏郎 パストガバナー 大友恒則 パストガバナー 齋藤榮助 パスト会長 諏訪慶蔵  
パスト会長・渉外友好副委員長 赤間俊明 副幹事・会長ノミニー 吉澤彰浩 広報会報副委員長 木村芳浩 幹事 石井宏幸

○スマイルBOX

- 米沢中央RC一同 (先日は米沢にお越しいただき、そして本日はお邪魔させていただきありがとうございます。一同楽しみにして参りました。これからもよろしくお願いたします。)
- 高阜裕会長 (米沢中央RCの皆様、本日は遠い所ありがとうございます。石井幹事、落語ありがとうございます。今後とも姉妹クラブとしてより深い絆で結ばれる事をご祈念申し上げます。)
- 車田裕介幹事 (本日はお忙しい中、宮嶋会長をはじめとする米沢中央RCの皆様、ご来訪ありがとうございます。石井幹事、とても楽しい落語ありがとうございました。来月の交流事業もよろしくお願いたします。)
- 石部辰雄会員 (誕生お祝いに感謝して、残された人生を頑張ります。ありがとうございます。)
- 成井正之会員 (米沢中央RCの皆様ようこそ。今週の大谷スマイルは29日の28号、30日の29号でした。シーズン40号打って欲しいですね。)
- 中目公英会員 (米沢中央RCの皆様、ようこそ白河にお越しくださいました。これからも楽しい交流を行なって参りましょう!!)
- 金田昇会員 (米沢中央RCの皆様、ようこそおいでくださいました。来月の交流会も楽しみにしております。)
- 小林義勝会員 (休みが続き申し訳ありません。遅くなりましたが高阜会長、車田幹事の無事な船出をお祝いたします。今後ともよろしくお願いたします。)
- 堀田一彦会員 (米沢中央RCの皆様ようこそ！石井幹事、落語ありがとうございます。10月4日の交流コンペよろしくお願いたします。)
- 富永章会員 (74回目の誕生祝いありがとうございます。元気で頑張ります。米沢中央RC皆様ようこそ。)
- 吉田充会員 (米沢中央RCの皆様、本日はありがとうございました。東北野球大会で対戦するのを楽しみにしていましたが、不参加となり残念です。また対戦できるのを楽しみにしています。)
- 鈴木孝幸会員 (米沢中央ロータリークラブの皆様、ようこそ。石井幹事様におきましては、楽しい落語をご披露いただきありがとうございます。)
- 永野文雄会員 (米沢中央クラブの皆様ようこそ。お久しぶりに多勢様とお会いしてなつかしいです。私も元気にやります。)
- 関谷亮一会員 (米沢中央 RC の皆様ようこそおいでくださいました。大友様、斎藤様、ガバナーの大役ご苦労様でした。石井幹事さんの落語ありがとうございます。)
- 吉野敬之会員 (米沢中央の皆様、本日はようこそ。コロナ以来お会いする機会が減って淋しい限りではございますが、今後とも機会を作り交流出来ます事を望んでおります。今後ともよろしくお願いたします。)
- 運天直人会員 (米沢中央RCの皆様ようこそ西クラブへ。10月の交流コンペは楽しみにしておりますので、よろしくお願いたします。)

### ▶第1725回例会出席状況 (R4年9月1日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	52名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	66名
Ⓒ ①の出席者数	26名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	2名
Ⓕ ②の出席者数	10名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	38名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	62
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	61.3%

▶例会日：第1・第3木曜日(12:30) その他の木曜日(18:30～19:30)

▶例会場：白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局：〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

## 本日のプログラム

### ■会長の時間



高島裕会長

皆さん、こんにちは。本日より9月になりました。もうすっかり季節も秋めいてきて、朝晩はすっかり涼しいような季節となっております。体調のほう管理されますよう、よろしく願い申し上げます。さて本日は、姉妹クラブであります米沢中央ロータリークラブ様から8名の方にご来訪いただいておりますので、ご紹介をさせていただきますと思います。まず初めに、宮嶋敏郎会長。続きまして、大友恒則パストガバナー。齋藤榮助パストガバナー。諏訪慶蔵パスト会長。赤間パスト会長。吉澤彰浩副幹事、会長ノミニー。木村芳浩広報会報副委員長。石井宏幸幹事。ちょっと今、この後の卓話の準備をされておりますということです。ということで、8名の皆様においでいただいております。先月我々6名でお邪魔した際も米沢中央の皆様には手厚い歓迎をいただきまして、本当にありがとうございます。また本日、米沢中央の皆様からお酒のほう2升いただいておりますので、何か例会でお酒が出る懇親会に使わせていただきたいと思っております。本当にありがとうございます。また、皆様にご案内のほう回っておりますが、10月4日に米沢中央ロータリークラブさんと合同例会ということで、ゴルフコンペを行った後に「アサヒビール園」で合同例会ということになっております。後程、皆様のほうにまた改めて出欠のほう取りたいと思っております。是非、奮ってご参加をいただければと思います。また、8月27日、28日にCKBチャレンジ県南ベースボール大会が行われました。17チーム参加の中で、第9回ということでしたが、優勝が逗子開成のAチームということで、両日天候には何とかぎりぎり恵まれたような感じでした。開会式、始球式、そして閉会式。それから、逗子開成さんのほうでパーベキューのほうにもご招待いただきまして、本当に大変良くしていただき、心より感謝申し上げます。今日は、野球の少年たちもそうなんですが我々野球愛好会のほうも、10月2日に東北大会を迎えておりますので、その辺も含めて会全体として応援をいただければというふうに思っております。なお、CKBの子供たちには家族や友人に対する感謝の気持ちを持ってほしいということ。そして、他人を思いやる気持ちを持ってほしい。そして、ずっと野球が好きでいてほしいというようにお話をさせていただきましたということで、ご報告をさせていただきますと思います。今日、月始めということで行事が沢山あります。そして、米沢さんからもお見えになっておりますので、会長の時間早めということで、この辺にしたいと思っております。後程、懐かしい写真を諏訪さんのほうからお預かりしています。こちら幹事報告と一緒に、3枚の写真を回させていただきますので、是非ご覧いただければと思います。以上、会長の時間、簡単ではございますが今日はこの辺にしたいと思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

### ■米沢中央ロータリークラブパスト会長 諏訪慶蔵様



白河の皆さん。本当にお世話になり、ありがとうございます。ゴルフと、野球の事でちょっとお話ししたいと思います。10月4日、郡山カントリーでありますけども、一昨年の成績でありますけども、グロスでは1位から10位まで米沢の会員はたった一人だけ、あとは全員の方が白河さんでございます。相撲でいえば、横綱と十両やるみたいなものでね。10月4日も、まず負けを覚悟して行きますけども、よろしくお願ひします。あと、野球ですけれども東北大会。今回ね、うちのほうも合併してまして、米沢中央だけじゃなくて、4つのロータリー合同でやっておりますけども、ちょっと米沢ロータリーが今、監督やってる歌川さんという方が都合が悪いので、せっかくの東北大会欠席なんです。今のとこね。でも、さっき何とかないかということで、帰りました明日の会場の監督に言ひましてね、何とか出なければ応援に来ますから頑張ってください。白河さんには、大変お世話になりまして、会員も60何名と仰って素晴らしいなと思っております。是非、これからますますのご発展を白河西さんお願いしたいと思います。

### ■幹事報告

車田裕介幹事

- 日本ユネスコ協会連盟理事長 鈴木祐司：「2021年度活動レポート」の送付について
- 国際ロータリー日本事務財団室：財団NEWS 2022年9月号
- 県南分区ガバナー補佐 郡部仁喜、県南分区幹事 味戸雄二郎：時期県南分ガバナー補佐推薦会報告、県南分区第2回会長幹事幹事会報告
- 国際ロータリー日本事務局 クラブ・地区支援室：第1回クラブ・地区支援室メッセージ(2022-23Q1)
- 東京優芳園株式会社：花の種パンフレット
- 県南分区ガバナー補佐 郡部仁喜、県南分幹事 味戸雄二郎：第2回会長幹事会議議事録
- ガバナー 佐藤正道、地区研修リーダー 石黒秀司、地区ロータリー財団委員長 田久昌次郎：2022-23年度ロータリー第2530地区ロータリー財団「クラブ活性化ワークショップ」ZOOM開催について
- 県南地域人材育成推進協議会会長 牧野富雄：令和4年度県南地域人材育成推進協議会総会書面開催について(依頼)
- ガバナー 佐藤正道、青少年奉仕委員会委員長 大木和彦、青少年交換委員会 原田康博

### ■委員会報告

#### ○雑誌広報委員会

佐川京子会員



こんにちは。雑誌広報員会より「ロータリーの友」の紹介をさせていただきます。皆さん、お手元にありますでしょうか、9月号です。始めに、横書きのほうを開けてください。目次のところに「バックナンバーでたどる『友』70年」というふうにあります。私はここの中では、このバックナンバーでたどる『友』70年のところと、それからその下にあります「心は共に 東日本大震災 ロータリー希望の風奨学金」についてご紹介したいと思います。まず、7ページをお開きください。もう70年ということなんですけれども、その次の9ページのところ開いてください。私が目に留まりましたのは、そこに緒方貞子さんからロータリアンに対するお礼ということで、53年8月号ではということなんですけれども、1951年から53年度に日本人2人目のロータリー財団奨学生としてアメリカに留学した緒方(当時は中村)貞子さんが寄稿というふうに

載っています。緒方さんもロータリー奨学生だったということを知りました。あと11ページを開いてみてください。そこには、右上のほうなんですけれども、松下幸之助氏も同胞ということで、座右の銘ということで「天地の恵み」というようなことを書いてらっしゃいます。その次に14ページを開いていただきたいんですけども、皆さんはこの「ロータリーの友」の70年のところで、自分の誕生した年にどんな記事が載ってたかなというふうに興味持たれると思うんですけども。ちなみに、わたくしは1961年生まれです。ですので最初に見てみたら、そここのところの記事には63年1月号ということなんですけども、ロータリーソングについて語り合う矢野一郎氏、それから藤山一郎氏。二人は、手に手繋いでの作詞作曲編曲者ということが書いてありました。この記事見て、私も手に手繋いで二人によって書かれたという事初めて知りました。あと皆さんも自分の誕生した年とかを見ていただきたいというふうに思います。その後の、今度は20ページ開いていただきたいんですけども、「ロータリー希望の風奨学金」の記事がございます。これは、東日本大震災の時に両親もしくは一人親を亡くした被災遺児を対象として、大学や専門学校で学ぶ者に入学から卒業まで毎月5万円を給付し返還を求めない奨学金ですということ載っています。震災当時、0歳だった子供も対象としているため、その子が4年制の大学を卒業するとして最短で22年間続くプログラムですということ、震災から11年です。ですのでちょうど折り返し地点に差し掛かっているということです。皆様からのご支援を引き続き心より願っておりますというような記事が載っています。続きまして、今度縦書きのほうに移りたいと思います。ここに最初のところで、縦書きの4ページなんですけれども、「折り返し地点からのライフスタイル」ということで、建築家の隈研吾さんの書かれた記事が載っています。隈研吾さんといえば、オリンピックで使われた国立競技場を設計した建築家さんです。その中で縦書き5ページのはじめのその付近なんですけれども、国立競技場の1階部分はコンクリート建築で、2階は木造になっているんですけども、その木をどこから調達するかと考えて、結局最終的に47都道府県の木を全部使うことになりましたというような記事が書いてあります。その木は環境基準に沿って育てられた責任ある木材を使うということになったそうで、競技場の一番南のゲートの所から、沖縄の木、そして西に行くと、鹿児島、熊本、長崎の木というふうに47都道府県の木が使われていて、並べると地域によってこんなに色が違うのかと驚かれると思いますというような記事があります。私もまだ国立競技場に行っていないんですけども、行った際にはその木の色、この記事に書かれているようにこんなに違っているんだろうと確かめたいというふうに思いました。日本海側と太平洋側、また北と南、それから高低差でも異なって、日本の多様性が実感できますというふうに乗っています。縦組みのなかでは、縦組みの13ページを開いていただきたいんですけども「卓話の泉」というところで、「美味しいお米の味わい方」。これからの季節、新米の季節になってくるので、そのお米に関する記事が横組みのところにも少しありましたし、縦組みのところでもあります。最近のお米は、私も主婦もしてるので感じるんですけども、精米の技術がすごく進んでまして、それで今は昔みたいに力入れてお米って研ぐ必要がないんですよ。皆さん、最近お米なんて奥さんに任せなくて自分で研いでることもあまりないかもしれないんですけども、本当にさっと水に流すだけで美味しいお米が食べれますので、そんなふうにさせていただきたいと思います。簡単ですけども、以上で「ロータリーの友」のご案内を終わりにさせていただきます。

#### ○親睦委員会



#### 大住由香里委員長

皆さん、こんにちは。親睦委員会の委員長です。月初めとなりますので、9月の誕生日、結婚記念日のお祝いをさせていただきますと思います。結婚記念日、鳴島三夫会員。誕生日、石部辰雄会員、富永章会員、金田昇会員となっております。誕生日の3名の皆様、前のほうにお願いいたします。おめでとうございます。



#### ■本日のプログラム

##### ○米沢中央ロータリークラブ会長

##### 宮嶋敏郎様



皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介がありました、わたくしは米沢中央ロータリークラブ会長の宮嶋でございます。よろしくお祈りいたします。今日は、二部制になっておりまして、私が前座、本題は石井幹事ということで。あんまりこういう例会に訪問に来た時に、こういう少しおちゃらけたような形で訪問するということはないというふうに思いますけども。実はこれ、私の年度になる前に、6月でしたかね。こちらのほうにお邪魔しまして、今年一年間どんな活動しましょうかというふうなお話した時に、石井さん当然今の名刺持ってませぬので、普通の名刺で名刺交換をして、そしてもう一つ名刺持ってたんすね。それが田舎家鯉志というそういう名刺、落語の芸名ですけども、それを高島直前会長にお渡しをしたんです。そうしたら、その時に今度こちらに来る時には石井さん落語してくれと、こういう話になりました。私でなくて石井さんが中心になってしまったと。金田さんもそう仰ったので、本人はもうえらく喜んで例会で自分の高座を持てるなんていうような事を喜んで来ました。ただ、そういっても彼の話だけではちょっと失礼だというふうに思いましたので、ちょっとだけ私の話をさせていただきたいと思います。先程来、私たち米沢中央ロータリークラブと白河西ロータリークラブさんとの交流の話がありますけども、残念ながらここ2年間ぐらいは、コロナというふうな影響がありまして、懇親の輪を深めることができませんでした。私もだいぶ前からこちらのほうにお邪魔してますし、実は私、今回会長2回目なんです。前にした時に、ちょうどこちらの吉田さんが会長の時で、野球なんか一緒にさせていただいた仲間なんですけども、そういう深い関係性があります。そういうものを、たった2年ですけど無くしてしまうと本当に関係性が薄くなるなというふうに感じていたもんですから、今年は何とかしっかりやりたいということで、事前に打ち合わせさせていただきました。先程来ありましたけども、10月4日の交流のゴルフコンペをさせてもらって交流会をするというふうなことです。そうやって地域は違いますけども、お互い交流することによってロータリアンの横の繋がりとというのがすごい深まってくだろうというふうに思っています。ですので本

年度、30年も前からお付き合いいただいていますけども、また新たな関係性を築きながらこれからも仲良くさせていたいただきたいというふうに思っています。それで、やっぱりこちらのほうにお邪魔して違うなあっていうふうに思います。ロータリーは考え方であるとか、システムであるとかある程度基本はあるんでしょうけども、やっぱり例会一つ取って見ても同じ所はありません。でも、私はそれでいいと思っています。そして、それがその会の独自の考え方だろうしやり方なんだと思います。でも、今日はすごくびっくりしました。まず一つは、ロータリー雑誌のあの報告です。あれはうちの会でやっていません。あれほど詳しく皆さんに丁寧にされてるといっては凄いなというふうに思いました。是非、持ち帰って私たちのクラブ情報雑誌の委員会もありますので、それを真似てやっていきたいというふうに思います。それと誕生日のプレゼント、皆さんでおめでとうというふうに言っていることです。こういう何気ない事ですけど私たちはやっていません。皆さんはごく普通にやってらっしゃるんですけども、やっぱりやってない私たちからすると、凄く新鮮に映ります。そして、どうやってこのメンバーと交流をしていこうかということが、すごくわかります。やっぱり、白河西ロータリークラブさんのクラブ運営というのは凄く感じました。ですので、持ち帰ったら今日知った事を自分たちの例会の中での取り入れてやっていきたいと思っています。ということで、前座の話は終わりました、ちょっと石井さんの話をさせてもらいますけども、石井さん、有名な早稲田大学の落研なんですよ。落研に入ったんです。出たかどうかは聞いてません。ということで、素晴らしい中身になるというふうに思っていますので、我がクラブの一番楽しい幹事でございますので、聞いていただきたいと思ひます。

#### ○米沢中央ロータリークラブ幹事

石井宏幸様（落語家 田舎家鯉志様）

皆様、本日はお招きいただきまして誠にありがとうございます。田舎家鯉志でございます。この間、白河来なきやよかったなと思っております。名刺持ってこなきやよかったなとか、いろんな反省を今、会長の話聞きながら思っておりますね。そうなんです。私、一応学校は入って一応落語研究会ですね。あの学校は、小沢昭一というもう亡くなりましたけど、彼が落語研究会というのを日本で初めて作ったんですね。由緒あるサークルなんですけども、それが1年で潰れまして、その間に東大が落語研究会を作っちゃうんですね。で、東大は真面目なんです。やっぱり東大の学生さんというのは。ずっと今でも落語研究会あるということで、一番歴史の長い大学の落語研究会というのは東大と言われてます。早稲田大学、翌年また小沢昭一が作り直しましてやり始めた。で、東大は落研（おちけん）というんですね。その名称が全国に知れ渡って、皆さん落語研究会というおちけんって言いません。言いますよね。おちけんだって。まず、私が出身したところはあそこは落語研究会、らくけんと呼んでるんですね。これ浸透しなかったんですね、全国ではですね。なので、私一人だけがいつもらくけんって言うんですね。他の方はみんな、おちけんかい。鯉志君はおちけんなんだとこう言われるんですけど、実は私はらくけんでございますね。まあ、どうでもいい話でございますがね。今日、やっぱり来てみるもんですね。今日はカレーがあまり美味しく残さず食べてしましまして、本当ありがとうございます。美味しかったです。ありがとうございます。いや、米沢がまず

いとかそういう話じゃないですよ。普通、落語する前というのはほぼ食べないんですよ。でも、ここの食事を食べないと、あといつ私食べれるかわかりませんので食べちゃったんですけど、まさか全部食うとは思わなかったですね、自分でね。全部平らげてしまってどういう状態かという、お腹パンパンですね、落語なんかやられる状態じゃないわけでございますね。本当にね。あと、このお氣遣いいただいたお水。落語をやってよくお茶なんかこう出るじゃないですか。あれを飲んでるといのは、よっぽどの名人か爺なんですよ。私、名人でもないし、まだ爺というほどでもない。というところで、飲んでいいかどうかすごくさっきから迷ってるはいるわけでございますね。まあ、あんまり枕を振りすぎるとですね、あの本題に入れなくなっちゃうんで。とはいっても、落語、米沢はうちのABCというのがありましてね。私の名前、鯉志ってあるじゃないですか。これ、米沢の鯉から取ってます。石井という名前、私の師匠が小枝というのが師匠でございますので、こが付いてこいしですね。小さな石だと砂利になっちゃうんで、どう見たって岩石みたいな顔してますからね。笑うところですよ。なので、米沢はABCのA、アップ。Bは米沢牛のBですね。Cはカーブ、米沢は鯉が名産で鯉志というふうに名付けていただきました。米沢なので、本来うちは立花亭というのが本来の号なんですけど、亭号なんです。私だけ鯉が付いたので、じゃ米沢らしく田舎だから田舎家にしとけてですね。それで、田舎家鯉志というふうな名前になっております。覚えなくていい話を今しております。で、何の話をしようと思ったんだっけな。えー、まあいいですね。そうそう、こういう落語長屋と言われるサークルがあるんですけども、いろんな所に呼ばれます。こうやってロータリーさん。米沢も4ロータリー中4ロータリー全部、私落語やってまいりました。で、初めて白河さんでやらせていただくということでございます。他には企業さんに呼ばれて行ったり、あと町内会とかですら、呼ばれて行ったりします。ある日の話なんですけど、私、中学校とかに呼ばれて行った時なんですけども、落語というよりはやはり定番というのは与太郎が出てくるお話じゃないかなとこう思ひましてね。馬鹿な与太郎の話をしてたんですよ。おい、与太郎と言った瞬間、中学生がドーンとうけるんですよ。うわあ、なんだ中学生でも落語聞けるなあと。でまた、馬鹿だな、この与太郎はと言うと、またドーンとうけるんですよ。で、いやあ今日はいい会だったなと思ひ。ああゆう学校とか行くと、終わると校長室に呼び出されるわけじゃないですか、校長室にご案内されましてね、お茶をいただくんですけど、そこで初めて名刺交換をしました。そしたら、校長先生の名前がマエダヨタロウという名前でした。相当しくじってしまひましてですね。本当、びっくりしました。名刺どうしようと思ひましてね。そんなことがございまして、この会場に与太郎さんはいらっしゃらないですね。そういう名前の方はいらっしゃらない。では、安心して与太郎の話をさせていたいただきたいと思ひます。おいおい、おい、与太郎、与太郎、何やってんだい。口をぽかんと開けて、ええ。口を閉じろ。口を開けばなしにしてるとな、馬鹿が余計馬鹿に見えちゃうぞ、口を閉じ。あはーはーは、おじさんさあ、だつてさあ、口閉じたらさあ、息できなくなっちゃうじゃねえか。何言ってるんだい。口なんかより鼻ですりゃあいいじゃねえか。はあ、鼻で息ができんのか。できんのかってやってごらんよ、口をつぐんでな、鼻から息吸ってごらん。じゃ、やってみる。はあー、吸えた。吸えたってなんだよ。え、お前、人間何年や、今度は鼻が出てきたよ。鼻をかめ、鼻を。おじさんてのはさあ、本当にあたいの事を



知らないね。あたいの鼻ってのはね、いっぺん出たらね、温泉のようにどんどん湧き出ちゃうからさ、紙もったいねえからかまねえんだよ。何を言ってんだい、ねえ。紙がもったいねえ。そういう時はなあ、ああ鼻かむだろう。かんだ紙をなあ、お天道様で乾かすんだ。で、乾いたなと思ったら、それをけつ拭く紙に使いや一石二鳥ってもんだろうよ。ああ、おじさんさ、その一石二鳥あたいやったんだよ。順番逆だったけど。けつ拭いた紙乾かしてさ、鼻かんだら臭えの臭くねえの。馬鹿だね、本当にお前は。まあ、しょうがない。こんなバカな話してる場合じゃないんだ。お前な、おじさんちょっと今日は忙しいからな。ここに座って店番をしておくれ。おじさん、裏のほうにいるから。何かお客さんとか来たらな、おじさんこと呼ぶんだ。わかったね。ああ、わかったよ、わかったよ。ここはね、見晴らしがいいんだよなあ。店の前、本当みんないろいろ見えるからな。はあ、今日も沢山の人が通ってるね。まるで白河市みてえだな。あっあ、何だ何だ。みんな慌ててやがるね。駆け出してるよ。はっは、雨降ってやがる、面白れえな。ふう、ひどい雨だね。ははあ、面白れえや。面白かねえよ。あの悪いだけどさ、ちょっと雨宿りしてえんだ。軒貸してくれねえかい。はあ、軒。こんなの持ってかれちゃったらさ、お店壊れちゃうから貸せねえよ。いや、そうじゃねえよ。ちょっとほら雨宿り、雨で困ってんだからさ。軒貸してくれってんだよ。ああ、そうかい。雨で困ってんだ。じゃあさ、おじさんこの傘持ってっていいよ。えっ何、傘貸してくれるの。いやいや、こんないい傘じゃなくていいよ。もっとさ、使い古しのやつないかい。いいよ、いいよ、それ持ってっていいよ。ああ、何ならうっちゃっちゃって構わねえ。そうかい、じゃあ貰ってくよ。ありがとうね。はっはあ、喜んで行っちゃまいがったな。おいおい、与太、与太。えっ、何。何じゃない。今どなたか見えたんじゃないか。んああ、なんかね、軒貸せって言うからさ、家壊れるといけねえからさ、断った。なんだい、軒くらい雨宿りだ。そのくらい貸したって構いやしねえだろ。どうしたんだい。あっあっあのさ、だからほら傘貸してやった。ほっ、何だい、お前にしちやあ随分気が利いてるじゃねえか。そうかそうか、じゃあ番傘貸してあげたのかい。ううん、違う。そこにあった傘あったからさ、それ貸してあげた。えっ、おいおい、そこにあった傘ってのはさ、おじさんがさ、この間買ってきたばかりの傘じゃねえか。まだ一回も差してないんだよ。いいかい。傘なんていうのはね、雨が降った時にしか使わねえんだ。晴れたら忘れちゃうんだ。戻って来やしねえんだよ。ううん、そうだな、じゃ傘の断りようってのを教えてやるからな、覚えときな。いいか。



うちにも貸し傘が何本かございましたが、この間からの長雨で、骨は骨、紙は紙でバラバラになりまして使い物になりません。今度薪でもしようと思って縄でくるんで裏の物置に放り込んでありますと。こういうふうに言っときゃいいんだ、いいかい、わかったね。今度来たら、そう言って断るんだよ、わかったね。ふふう、わかったよ。ごめんください。誰。向かいの者なんですけどね、うちにね、ネズミが出ましてね。あの一、お宅の猫、ネズミ捕りの上手えって聞いたもんですからね。ちょっと猫をお借りしたいんですけどね。ああ、猫。うちにもね、貸し猫が何匹かおりました。貸し猫ですか。ええ、ええ、この間からの長雨でね、骨は骨、皮は皮でバラバラになりましてね。使い物にならないんでね、縄で丸めてね、物置に放り込んでんです。ああ、そうですか、それではごめん。おいおい、与太郎。今、どなたか見えたんじゃないかい。ああ、お向かいさん。お向かいさんがどうしたい。おう、ネズミが出たから。ああ、猫を貸せと。タマ、ここにいるよ。どうしたんだい。ああ、断った。断った。何だい、そういうのはね、ご近所付き合いつてのがあるんですよ。猫なんかいくらだって貸したって構わねえじゃか。何で断ったんだい。だからさ、うちにもね、貸し猫が何匹かおりました。この間からの長雨でね、骨は骨、紙で言おうと思ったけどね、猫紙ねえだろ。だから、皮は皮って、ここはね、あたいのとんちの利くところ。お前のとんちは余計なところで利いてくるんだよ。そういう時はね、猫の断りようってのがあるんだ。いいかい、覚えときな。うちにも猫は1匹おりますが、近ごろ盛りがついたらと見えて、とんとうちへ寄り付きません。この間久しぶりに戻ってきたと思ったら、どこかで悪いもんでも食べたんでしょ。お腹壊しまして、座敷汚すといけませんから、今マタタビ舐めさせて寝かしつけてありますと。こうやって断りゃいいんだい。わかったね。今度そうやって断るんだよ。ううん、わかったよ。ええ、ごめんください。はい、誰。あ、これはこれは。あの近江屋でございますが。あの手前どもの主の目の届きかねる品物が入りまして、お宅の旦那様に鑑定をお願いしたいんでございますが、旦那様をお貸し願えないでしょうか。ああ、うちの、旦那。ああ、うちにもね、旦那が1匹おりました。いっ、1匹ですか。ええ、近頃盛りがついたらと見えましてね、とんとうちへ寄り付かないんです。この間、久しぶりに帰ってきたなあと思ったら、どこかであの悪いもんでも食べたんですかね。お腹壊しましてね。座敷汚すといけませんからね、今マタタビ舐めさせて寝かしつけてるんです。そのようなことになるとは、これはこれは後程、主とお見舞いに伺いますので、これではごめん。おいおい、与太郎。今、どなたか見えただろう。ああ、近江屋。近江屋と言う奴があるか。さんを付けなさい、さんを。さん。今頃付けてどうするんだい。どうしたんだい。ああ、あのね、なんか鑑定がどうか。ああ、そうかそうか。何かあれだな、目利きの話だな。じゃあね、おじさんちょっと近江屋さん寄ってくるから。いやあ、いいよいいよ、行かなくていいよ。なんだい、行かなくていいって。断った。断った。お前、なんて断ったんだい。だからさ、おじさん貸せって言うからさ、うちにも旦那は1匹おりますが、近頃盛りが見えて。お前、それやったの。頭からねお尻までね、パーフェクト。そういうのはね、パーフェクトにしなくていいんだよ。今、近江屋さんの所行ったら、ゲラゲラ棚中で大笑いだよ。しょうがないね。おいおい、ちょっと来ておくれ。羽織出しておくれ。ちょっとこっちへ来て。いいかい、いいかい。あんな、私今から近江屋さん行ってくるから。留守はお前がやりなさい。いいね、わかったね。はい、わかってございます。そ

れでな、あのお前も忙しいだろうから、何かあったら与太郎に言ってお前を呼ぶように言っておきなさい。わかったね。じゃあ、私は行って来るよ。はい、行ってらっしゃいませ。ああ、行ってらっしゃい。ちよいと、与太さん。あのね、あたしも今ね、店番してる場合じゃないの。ちよいと手が離せない仕事があるからね。何かあったら、おばさんとこ呼ぶんだよ。いいね、わかったね。わかったよ、わかったよ。ええ、ごめんください。はあ、本当に今日は人がよく来るね、誰。でっちゃんてっか。ええ。でっちゃんてっか。ふふふふ、てっちゃんてっちゃん。ちやいまんがな。でっちゃんでしたら。あのな、わてな、中橋の加賀屋佐吉方から参じました、せんの仲買の弥市が取り次ぎました道具七品でございますがなあ。あれは、祐乗、光乗、宗乗三作の三所物に横谷宗岷小柄付きの脇差し。中身は備前長船則光、柄前はつかさまえでございますがなあ。あれは埋れ木やそうで、木が違っておりますさかいちょっとお断り申し上げます。並びに、黄ばく山金明竹寸胴ぎりの花活けにのんこの茶碗。風羅坊芭蕉正筆の掛け物。沢庵木庵隠元禪師のはりませの小屏風。あの屏風はわての旦那で兵庫におあしてな。兵庫のそのたいそう好みする屏風屋によって屏風になり、兵庫の坊主の屏風に出しやすと、かようおことづけ願いたいんでございますがなあ。はは、ははは。あはは。おじさん、面白れえな。五円やるからもういっぺんやれ。何ゆうてまんねや。わからんならもういっぺん言いますがな、よう聞いておくなはれな。あのな、わてな、中橋の加賀屋佐吉方から参じましたせんの仲買の弥市が取り次ぎました道具七品でございますがなあ。あれは、祐乗、光乗、宗乗三作の三所物に横谷宗岷小柄付きの脇差し。中身は備前長船則光、柄前はつかさまえでございますがなあ。あれは埋れ木やそうで、木が違っておりますさかいちょっとお断り申し上げます。並びに、黄ばく山金明竹寸胴ぎりの花活けにのんこの茶碗。風羅坊芭蕉正筆の掛け物。沢庵木庵隠元禪師のはりませの小屏風。あの屏風はわての旦那で兵庫におあしてな。兵庫のそのたいそう好みする屏風屋によって屏風になり、兵庫の坊主の屏風に出しますと、かようおことづけ願いたいんでございますがなあ。あはは。ははは。ははははは。おかみさん、おかみさん。表にね、よく喋る馬鹿が来た。これも、どうもあいすいません。何言ってます。もう、大変失礼いたしました。ちよいと手が足りませんもんですから、このような愚かしい者を店の前に立たせておりました。いえいえ、もう大変失礼しましたが、何かご用か何か。えーやー、おいはんでっか。はい。あの、おいはんでしたら。あのおいはんでしたらこちらのほう曲がった所に。いや、ちやいまんがな。おいはんですな。あのな、わてな、中橋の加賀屋佐吉方から参じましたせんの仲買の弥市が取り次ぎました道具七品でございますがなあ。あれは、祐乗、光乗、宗乗三作の三所物に横谷宗岷小柄付きの脇差し。中身は備前長船則光、柄前はつかさまえでございますがなあ。あれは埋れ木やそうで、木が違っておりますさかいちょっとお断り申し上げます。並びに、黄ばく山金明竹寸胴ぎりの花活けにのんこの茶碗。風羅坊芭蕉正筆の掛け物。沢庵木庵隠元禪師のはりませの小屏風。あの屏風はわての旦那である兵庫におあしてな。兵庫のそのたいそう好みする屏風屋によって屏風になり、兵庫の坊主の屏風に出しますと、かようおことづけ願いたいんでございますがなあ。何をゲラゲラ笑って、お茶をお出しなさい、お茶。あっどうもあいすいません。ちょっとこの者に

小言を言っております、ご用件の節はなんと。いやいやいやいや、今あの口上を申し上げましたけどなあ。さようでございますか。ちょっと小言を言って二三聞き漏らしたところがございしますので、もういっぺんお聞かせ願えないでしょうか。かなわんなあ。わてもせいでますさかいなあ。ほなもういっぺんだけですわねえ、よう聞いておくなはれや。あのな、わてな、中橋の加賀屋佐吉方から参じました、せんの仲買の弥市が取り次ぎました道具七品でございますがなあ。あれは、祐乗、光乗、宗乗三作の三所物に横谷宗岷小柄付きの脇差し。中身は備前長船則光、柄前はつかさまえでございますがなあ。あれは埋れ木やそうで、木が違っておりますさかいちょっとお断り申し上げます。聞いてますか。木が違っておりますさかいちょっとお断り申し上げます。並びに、風羅坊芭蕉正筆の掛け物。沢庵木庵隠元禪師のはりませの小屏風。あの屏風はわての旦那で兵庫におあしてな。兵庫のそのたいそう好みする屏風屋によって屏風になり、兵庫の坊主の屏風に出しやすと、かようおことづけ願いたいんでございます。ほな、さいなら。ちよちよちよちよと、ちよと。はあ。行ったじゃない。え、お前が足ばたつかせて喜んでる場合じゃないよ。お前がね、お茶をちゃんと持ってきてくれたらね、もういっぺんくらい聞けたんですよ。ただ今帰りましたよ。どうかしたのかい。ああ、どうもお帰りなさいませ。お客様が来たのかい。今、出たばかりなんですがお会いになりませんでした。いやいや、私は誰とも会ってませんがね。ええ、どのような人でした。どのようなと言われても、こんな感じの。どちらからね。どちらからって、あちらのほう。お前、与太郎みたいになってるよ。だから、どなたが来たかを聞いてるんです。えっと、中橋の加賀屋さん。おお、加賀屋佐吉さん、お前も知ってるだろう。ええ、あの仲買の弥市さん。おお、弥市か。あいつにはな、いろいろと頼みごとをしてあるが、弥市が何かしたのかい。いえいえ、あの遊女を身請けしたとか。遊女を、身請けした。ああ、そんな話があったのかい。ええ、それでどうしたい。ええ、その遊女が大層孝女で掃除が好きだって言うんですよ。ああ、そりゃ孝女だろうな。ほんでね、気が違ったんです。気が違った。どういうことだい、それ。ええ、なんかね、おざ船に乗って備前へ行行ったって言うんです。で、そこでもってその遊女を寸胴切りにしちゃったって。寸胴切り、物騒なことになったね。で、どうしたい。そうしましたら、今度はなんか兵庫のほうへ行かなくちゃになりまして、なんかそこで食べるものがインゲンと沢庵ばかりになっちゃって、何杯食べてものんこのしゃあだと言うんですよ。なんか汚いね、お前の話。どうした。でね、その兵庫に行ったらお寺に行きましてお坊さんがいたんだそうです。お寺にはお坊さんがいるだろうよ。で、そのお坊さんの後ろに屏風がありまして、お坊さんがいて屏風があって、お坊さんがいて屏風があつて、これなんでしょう。何でしょうじゃないでしょう。いいかい、人の話なんていうものはね、ところどころわからなくて大体筋が検討がつくというもんだよ。お前の話は全部ばらばらじゃないか。え、何か確かなことはなかったのかい。確かなこと。ございました。えっと、古池へ飛び込んだんです。なんだって、古池へ飛び込んだ。いや、あいつにはな、道具七品を買う手付けを預けてあるんだ。それを買ってか。いえ、買わず(蛙)に。どうもありがとうございます。ありがとうございます。ありがとうございます。どうもありがとうございました。